

# 会社は悪という思想

会社やスポーツ界のトップの辞任が多い。パワハラやデータ改竄が原因だがこれは氷山の一角、九牛の一毛である。暴けばいくらでも出て来る。読者の拍手を得ようと新聞は正義の剣を振り回すが、不祥事は「人と組織」の宿命である。これはまた組織を蝕む、大企業病」と無関係ではない。

## おごりと怠慢が不祥事の原因

会社は悪いことをする。東芝の不正会計、日産の排ガス検査改竄、スルガ銀行の詐欺的融資。名門神戸製鋼所に端を発した製品（ばね用鋼材）の品質検査の報告書改竄が発覚したのは昨年十月。同様の不正は三菱マテリアルグループ三社にもあり最近電線大手のフジクラが検査数値の改竄を発表。

この不正に共通する動機は「受注の獲得と納期達成のため」であり「この程度の数値のごまかしは製品の質や安全性に問題はないのでお客様からクレームを受けない気遣いはない」という製品の質と技術に対する「おごり」にあった。

この「おごり」が曲者。クロネコのヤマトホールディングスの社長が八月三十一日記者会見で「意図的な水増し請求」を認めて謝罪した。水増し請求の相手は個人ではなく会社や公組織。たとえば社員の引越越しを請け負っているケースでは作業員五人の見積りを出し、実際は三人で仕事を完了しても、初めの五人の見積りを請求して受け取る。たとえば一万个の商品配送の見積り書を提示し、実際は八千個で済んだ場合でも一万个分の配送料を頂戴する。

この過大請求は八年以上前から支店などで始められ、ここ一年間

もう一つはクロネコに対する信用が高いこと。クロネコの創始者小倉昌男は名経営者として尊敬されている。クロネコの宅急便は敵なしの全国制覇チャンピオンである。社員は末端の配達員までよく教育されており質がいい。

クロネコが水増し請求のような「クロネコが水増し請求のようなセコいマネはするわけがない」と信用し切っている。

新聞はこの事件を「クロネコブランドのイメージ悪化」「倫理感が弱くなっている。信頼の回復はできるのか」と書き立てるが、こ

現場で大型クレーンが倒れた。台風の強風のせい、用心はしていたが倒れてしまった。クレーンの先が隣家の塀をかすって傷ついていた。社長は報告を聞いて胸をなでおろした。

翌朝、地方紙Mの一面に倒れたクレーンの写真が大きく載った。題は「台風の傷跡」。社長と社長名が記されていた。台風の傷跡なら社名などいらないのではと社長は思った。

経営管理講座 357 染谷和巳

## 会社を憎悪する女性新聞記者

地方の大手建設会社の社長の話。地方の管理監督がゆるんでいるのではないか。

まるで刑事が犯罪者を訊問する態度である。M記者の目には険があった。「大変な事件を起こした」と非難する表情があった。社長は事実を丁寧に話した。感情的にならないよう努めた。

集が組まれた。Y社のクレーン事故が下敷きになっており、随所で比較例として引用されていた。Y社は上場企業で県でも名の通った会社である。社員の質は高く、全社で整理整頓清潔清掃に取り組み、事務所や庭だけでなく町の道路や公園まで社員がきれいにしていく。町の評判はよく、近くにY社があることを誇りにしている。

にもかかわらずM紙はいつもY社を悪く報道した。他の会社も悪く書かれたが、Y社が特に目立っていた。恨みでもあるかのように小さな疵を大きく報じた。

「政府、警察、企業を権力の三城と見做す新聞が多い。この城を攻撃すれば読者が喜ぶと思っている。事実を否めても企業を悪く言い、いい所は知らん顔したり小さく報道したりします。A紙M紙、地方紙大手のT紙、A紙と比べるとM紙は小新聞社ですがなかなか骨のある左翼紙です」

## 反会社人間が大企業病を誘因

欠点を探し欠点を指摘すればどんな英雄偉人にも欠点はある。だからといってその偉業の価値が下がることはない。

M紙などは自分の足を喰うタコになりかねない。反会社の発言をし行動することから法律上も許されているのは労働組合である。かつて組合が強くなつて潰れた会社がたくさんあった。今は自分が所属する会社を潰したら元も子もなくなると、組合員も賢くなり露骨な反会社活動を始める組合は少なくなつた。

ある時、社長は隣の介護老人ホームのオープンングセレモニーに招待された。隣町は貧しく自力で施設が作れなかった。知り合いの町長がY社社長に助けを求めた。土地は町が都合したが、建物からベッドなど設備の一部までY社が無償で提供した。

町長がお礼の言葉を述べ、Y社長に感謝状を手渡した。パーティーになって多くの人がY社長に慰労とお祝いの挨拶に来た。

ふつと見るとマスコミ関係者の中にM紙のM記者がいた。MさんはY社長を一瞥して目を逸らした。何度か会っているのにお祝いにも取材にも来なかった。Y社が世の中のためになる「いいこと」をするなんて、Mさんは信じられないし許せなかったのだろう。

「うちだけでなく会社は、会社は悪」という固定観念を武器に攻撃してくる新聞やテレビと余計な戦いをしていかななくてはならないんだ」とY社長は苦笑した。

会社は少し生あたたかい風が吹くと、こうした社員の体内の大企業病菌が増殖を始め、周りに伝染し組織を真正の大企業病に陥らせてしまうのだ。